

血

液

内

科

だ

よ

り

臨床研究について

現在の治療や看護は、医師個人の経験や考えに基づくものではなく、科学的に効果や妥当性が証明された根拠（Evidence：エビデンス）に基づかなければならないと考えられています（Evidence-based medicine, EBM）。原三信病院 血液内科でも、こうしたEBMの考え方に根ざして、標準化された医療の提供に努めています。

しかし、根拠が得られ、EBMに基づいた医療であれば、それが最良なのでしょうか？ 医学も他の分野の科学と同様に、日進月歩なのです。今の治療を少しでも改善し、未来の患者さんたちの治療を少しでも良くする取り組みが連綿と続けられており、それが未来のエビデンスとなって、将来の標準的な治療や看護を改善させることにつながります。

当科でも、白血病などの血液疾患の患者さんに、よりよい治療を提供するために、診断、治療や看護の改善に努めています。このような診断や治療、看護についての改善の試みを一般に「臨床研究」と言います。

当科独自に行なっている「臨床研究」もあれば、他の医療機関とともに、あるいは多施設の医療機関による研究グループの中で実施している「臨床研究」もあります。いずれも、これまでの「臨床研究」などの結果を基盤として、さらに治療やケアの改善を目指し、その妥当性や倫理性などについても吟味して、当院倫理審査委員会の承認を得た上で実施されています。

「臨床研究」への参加は、必ず明確に患者さんに提案され、主治医あるいは担当者からの詳細な説明を受けた上で、参加していただけるかどうか、患者さんご自身の自由な意思で決めて頂きます。たとえ参加されなくても、その後の治療に不利益になることはありません。

「臨床研究」を提案された場合、あるいは現在「臨床研究」に参加されている患者さんで、疑問などございましたら、何時でも主治医や担当者にお尋ね下さい。



注釈*) 原三信病院は、九州大学病院血液・腫瘍内科を中心とした、福岡血液移植グループ (FBMTG) に所属し、Japan Study Group for Cell Therapy and Transplantation (JSCT) などの「臨床研究」に参加しています。